

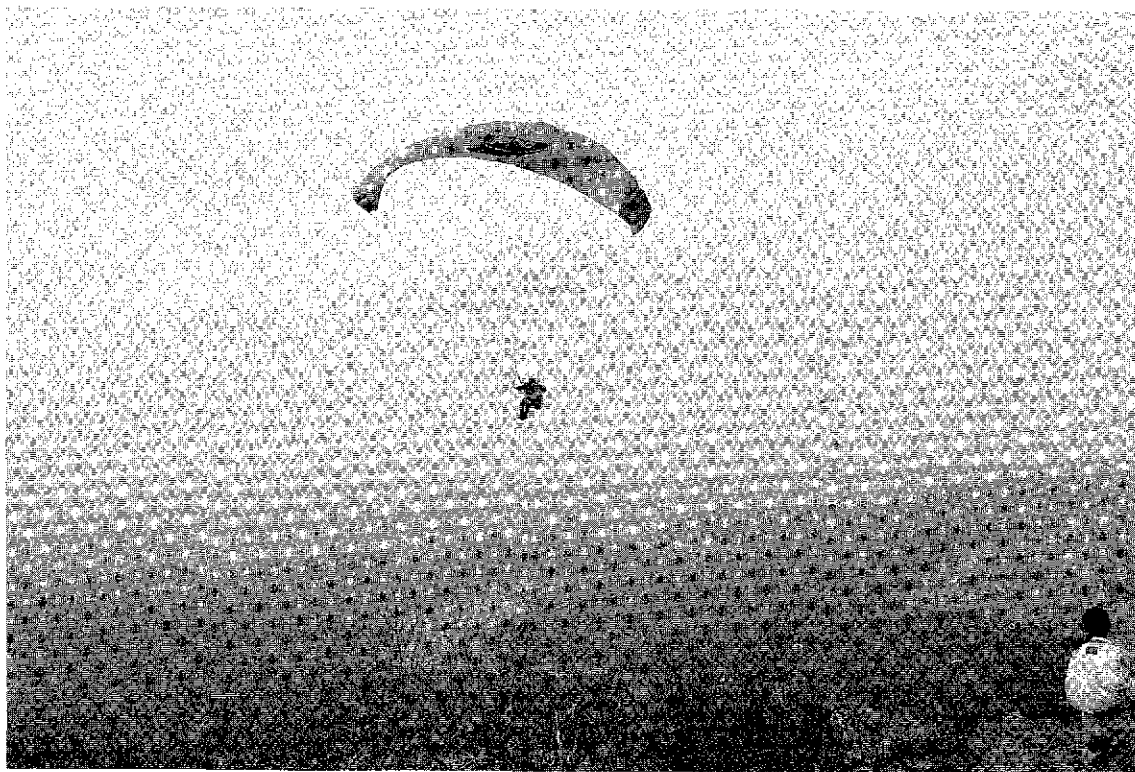
新潟県

平成4年

# 公民館月報

1月  
第467号

## 関プロ公研集會に学ぶ (3) 座談会 分科会からの提言 ①



ふるさと・吉川町

湖上のあけぼの

春一路

尾神の峰よ

梅花鹿

百花の香り

吉川町の 旗ヶ原

あさぼらけ

鳥人の里

ふるさとマツ

ブナのうたこえ

幾千里

世界の友よ 吉川町

山河の魂

ふとこころに

「ふるさと」吉川町

写真提供

吉川町公民館

# 全公連発足40周年記念

# 第四十回全国公民館振興大会



受賞者を代表して謝辞を述べる大橋及子さん  
(愛知県神島田公民館長)



鳩山文部大臣のあいさつ

平成三年十一月二十七日(例年)のとおり、東京赤坂プリンスホテル5階ロイヤルホールを会場に、第四十回全国公民館振興大会が開催された。

今年、全公連発足四十周年という記念すべき節目の大会とあって、鳩山邦夫文部大臣をお迎えして、全国から参集した千名を超える関係者によって盛大な振興大会が挙行された。

本県からは、市町村長、教育長、公民館長、同表彰関係者等四十五名が参加した。

定刻十二時五十分に開会。主催者あいさつに立った吉里邦夫全公連会長は、「世紀末と言われ

る時代に突入し、世界は師走の時代を迎えているが、公民館人は騒がず急がず、二十一世紀へ向けて力強い歩みをしなければならぬ。この大会を契機に決意を新たに、国民の教育のために努力していきたい。」と決意表明していた。

続いて、公振連会長代行の太田大三氏(盛岡市長)が立ち、「今や、公民館は生涯学習の拠点施設として無くてはならない施設、この時代的要請を深く認識し、生涯学習社会の実現に向けて、公民館の整備充実により一層努力したい。そのため、平成四年度国庫補助要求額の満額獲得のため、全公連と提携して取り組む」旨のあいさつがあった。

このあと、文部大臣が登壇し四名の全公連、公振連の前会長副会長等に感謝状を授与するとともに、「公民館は、住民の身近な学習・交流活動の場としてこれまで大きな役割を果たしてきたが、今後一層生涯学習振興の中核施設として、その役割を果たすよう期待する」とあいさつされた。

表彰式では、全公連発足40周年記念特別感謝状13名、特別功労賞1名、全国優良職員表彰37名、永年勤続職員表彰135名が受賞された。なお本県関係の受賞

者は次のとおり。  
特別感謝状

石井 耕一(前全公連副会長前豊栄市長)

全国優良職員表彰

山田 欽二(前加茂市公民館長)

永年勤続職員表彰

塩入 金作(前中之島町公民館上通分館長)

本保 敦子(粟島浦村公民館社会教育主事)

吉田 八曾八(長岡市山通公民館長)

小見 芳栄(長岡市山本公民館長)

岩崎 立丸(長岡市十日町公民館長)

梶 瑤子(新潟市鳥屋野地区公民館職員)

小川 昇(新潟市坂井輪地区公民館主事)

公民館振興同会議員懇談会の議員各位におかれては、この日臨時国会中のごもあつて多忙を極めている中から、七人の方々が駆けつけてください、こもごも祝辞と激励を受けた。

このあと、大会宣言決議(割愛)と記念講演「今、地域・家庭から非行をなくすために」稲村博氏(精神科医・筑波大助教)を講聴し、全日程を終了。予定どおり十六時散会した。

(記念講演要旨は次号で紹介)

公振連理事・代議員会開催

新会長に太田大三氏 (盛岡市長)

平成三年十一月二十七日に挙行された第40回全国公民館振興大会の終了後、別室に会場を移し、平成三年度の公振連理事・代議員会が開催された。

主要案件は役員改選にあった。会長服部毅一氏が焼津市長退任に伴い、公振連会員資格を失って会長辞職。その後をうけて、これまで会長代行の任にあった太田大三氏(岩手県盛岡市長)を会長に推挙、副会長に

市長)を会長に推挙、副会長に 蔦田浩氏(岐阜県岐阜市長)柴田進氏(石川県鶴木町長)を推挽した。なお、その他の役員は全員留任となった。したがって、当県公振連会長伊豆野壹郎氏も理事を留任することになった。

平成二年度の事業報告・収支決算、平成四年度事業計画・収支予算案等その他案件はすべて、原案のとおり可決決定された。



感謝状を受ける前会長

辛口

過日、湯沢町においで公民館関係プロ大会が開かれ、私は利用者の立場で参加の機会を与えられた。公民館関係者の並々ならぬご努力を知る良い機会であった。と同時に、利用する立場としていかにあ

地域発展の要

藤丸 珪子

が安い」とこぼす友人、きつと、私も役員として関わりがなかったならば、そのような考え方も「可」としていかかにも知れない。いかに人集めに様々

な苦勞が伴うことなのか、いかに自主的活動につなげることに多大な心配が必要か等々のことは、利用者にとっては、余り関心事ではない。企画を担当し、役員となって始め

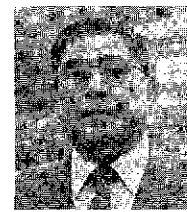
も増えているようだ。学習の喜びを知る人は、どんなに多忙であつても、わずかな時間を作つて、ノート持参で出かけて行く。そのためには、住民の学習要求にこたえるべく、公民館関係者と利用者とは心の交流を図りながら、地域生涯学習推進の要として、ともに発展することを心から望む一人である。

(新潟市坂井輪地区公民館利用者団体連絡協議会役員)

いきいき小出

Mさんへの便り

佐藤 孝喜



中社研 戸惑う変りようです。この時を合わせるかのように二十一世紀への旅立ちを印す「第三次小出町総合計画」がスタートすることになり、その全体計画が町民に提示されました。うるおい・ふれあい・いきいき小出をテーマに、人びとの楽しい語らいのあるまちづくりを目指しています。

貴方がいつも言っていた芸術文化振興の拠点となるための文化施設の建設も堰を切った勢いで進行しております。

また、文化芸術団体招へい事業も継続して実施されることになりました。

スポーツ施設面でも県内では初めての可動式上屋付水泳プールもオープンし、

ひろば

秋の紅葉に魅せられて、秋山郷へ二度も旅をしてきました。重ね合わせた木々の紅葉が周囲と見事に調和して、自然で飾り気の無い美しさの中に、忘れかけていたものを静かに思い出させてくれる興奮を覚えるものでした。あの時お伝え出来なかった時の流れを埋める気持ちでペンを取りました。

貴方が勤めていた当時の小出町は、河川改修と都市計画事業が併行して進行していた時であり、建設機械の絶え間ない喧騒で落ち着きのない風景だけでしたが、ようやく終息を迎え、変貌した街並みとその姿を現して来ました。以前と全く見違える街の姿に、任んでいる私自身が

まさに、いきいき小出のスタートです。この構想に基づいた実践を、その過程で私たちは何をして来たかについて、貴方と深く語り合える日を楽しみにペンを置きます。

(小出町公民館運営審議委員)

# に学ぶ(3) からの提言①

大和町公民館長  
小千谷市公民館長  
十日町市公民館副参事  
糸魚川市中央公民館長  
県公運事務局長

新年明けましておめでとございます。  
昨年を振り返りますと、なんといっても関プロ公研集会の主管ということが最大の事業でした。その大イベントも労のみで益がないというのではつまらないことですから、当面の関心事となつている分科会の内容を世話役の方々から紹介して戴き、その分科会をコアにして他の分科会にも広げたいという欲張った考え方と、さらに、当県の実情をオーバーラップしたいと考えました。

名づけて「座談会、分科会からの提言」をさっそく始めさせていただきます。

## 一、地域づくりと公民館

### 地域づくりは人づくり

森山 この部会は参加者数202人という最大の分科会でした。これは、「生涯学習の地域づくり」が当面の関心事になっているところからだろうと思えます。発表は、千葉県佐倉市の理事さんで、司会も同じ佐倉市の女性館長でした。

佐倉市は、昭和28年ころは人口三万五千人程度でしたが、現在は十四万八千人に膨れていることから、在来の市民と転入市民とが溶けあつて一つの佐倉市民としての意識を持つて貰いたいという願いから、市内六公民館の全館で、全市民を対象に印旛沼を中心とする歴史や文化を学び、佐倉市の理解を深め、都市づくりを進めているものです。つまり、「学習をおしての故郷づくり」をすすめているわけです。

上村 印旛沼という市民共有の財産を核にして学習していくという方法ですね。沼への愛着を深めて、その上で沼の浄化、自然環境の浄化に取り組みという発想ですね。

森山 そうです。印旛沼を中心とした自然、歴史、文学を題材にし、ついで、環境汚染の課題についても学習するもので、市民の取り組みの意欲が違つて言っていました。

寺崎 佐倉市のこととはよく分らないのですが、印旛沼の恩恵に直接浴していない地域もあると思うのですが、そこでも同じ内容を扱っているのですか。

森山 公民館は六つあつて、最も中心的に学習をしているのは中央公民館と白井という地区公民館で、他の四つの公民館ではその地区内で印旛沼に縁のあること、例えば、古い地名の由来を学習するといったふうですね。

大淵 すると、いわゆる「学習」が主体で地域づくりの活動はしないわけですね。

森山 その学習に参加した人たちを、地域づくりのリーダーにするように工夫していると言っていました。なかでも「転入市民」に、市民意識を持つてもらうための工夫をしているということですね。

上村 地域づくりの動機づけになる学習活動を模索しているということですね。  
みなさんのところでは、どのようなにしているんですか。  
森山 うちの場合は、地域づくりは地域公民館(類似施設)が



中央公民館と白井という地区公民館で、他の四つの公民館ではその地区内で印旛沼に縁のあること、例えば、古い地名の由来を学習するといったふうですね。

中心でやっているもので、どちらかというところ、実践活動が主体になっていきます。例えば、「さわらび」という音楽ホールを町の事業として設置させる運動、それができると、その施設の自主運営ができるまでの技術指導やその後継者育成などにとめてい

その施設づくりの成功に自信を得て、ある分館の青年たちは「童夢」というサークルを作つて裏山の城跡を中心にした遊歩道を作り、老人たちは、小学生の「米づくり体験学習」の指導をするなどどちらかというところ、地域興しの活動が活発です。

寺崎 糸魚川市でも、根知公民館や上早川公民館という地区公民館が活発なのですか

「塩の道」の資料づくりや「根地域の狼煙」の復活など地域興しそのものの活動が盛んです。

羽鳥 小千谷市では、昔は新生活運動を起爆剤にしました。が、十年前から中学校区を核にして、福祉行政とタイアップして「明るく豊かな地域づくり」というキャッチフレーズで、その地区に適した課題を選び、リーダー研修であるとか発表会や地域文化を学ぶ学習をしてい



市民館が活発なのですが「塩の道」の資料づくりや「根地域の狼煙」の復活など地域興しそのものの活動が盛んです。

ます。  
例えば、伝統芸能の保存や、雪を克服するための知恵の出しあい、その他地域づくりのための学習です。

大淵 十日町では、市民主体の活動として代表的なものに「雪祭り」があります。そのイベントをおして、雪の利用法とか仲間づくりなど、公民館が取り上げるものが極めて多く潜んでいます。つまり、結果を大事にすると同様に過程も大事にしています。

地域づくりのイベントは、ややもすると、日立ちたがりの派手さを競う傾向が強くなるものですが、十日町の「雪祭り」の場合は二十年以上も続く年中行事となつていて単に奇をてらうイベントではなしに冬の風物詩になつていきます。

分館運営にもスポットを

森山 どの町村も同様だろうと思いますが、大和町では分館活動に力を入れています。数分館では「誰でも住んでみたくなる地域」をキャッチフレーズにして、「地域活動」「文化活動」「スポーツ活動」の三分野に分かれての活動をしています。「地域活動」の分野では、コミュニティモデル事業(あしたの新潟県を創る運動協会指定事業)を

分館運営にもスポットを

# 関フ口公研集会 座談会 分科会

新 治 雄 春 郎  
昌 英 直 捨  
山 鳥 洲 崎 村  
森 羽 大 寺 上  
第7分科会  
第10分科会  
第11分科会  
第12分科会  
聞 き 手

抱き込んで活動しています。今年、地区の各戸の世帯内容をビデオに撮る仕事をしていました。抱き込んで活動しています。今年、地区の各戸の世帯内容をビデオに撮る仕事をしていました。

寺崎 糸魚川でも、各谷で駅伝や芸能の伝承活動などが盛んです。地域づくりの活動の主役は地区館や分館になるのでしょうか。とくに文化遺産伝統芸能の保存や復活などについては、分館活動としてとりあげるものが多いですね。

羽鳥 おっしゃるとおりです。小千谷市ではいま、盆踊りの復活などが各地で盛んになっています。市の行政では、「プラスワンの街づくり」の掛け声のもとに「人づくり」を最優先にして

います。人づくりはまちづくりにつながるものですが、住民にとっては、地域づくりが人づくりにつながるものとして分館活動の第一の目標になっているわけです。心の過疎を作らないために。

上村 「文化活動と公民館」の分科会の内容への広がりを持った意見をうかがうことができませんでした。地域づくりに関わる公民館の事業としては、学習にする実践にしる、公民館の最前線である分館や類似館が活動の拠点になっているのだから、県公連としても分館や類似館の運営問題にスポットを当てる必要がありますね。

では、次に社会福祉と公民館の分科会に移らせていただきます。羽鳥さんどうぞ。

## 二、社会福祉と公民館 福祉活動と公民館の接点

羽鳥 社会福祉との関係は時代を象徴した課題であります。とりわけ高齢化社会を迎えた今日、公民館でもこの課題を素通りすることは出来ません。そのためか、分科会の参加者は、前回(長野県集会)の五県から三十四名だったのに、今回は一都八県六十名に広がっています。しかも女性が四割と驚くほど多かったのが特徴的でした。

実践発表は、長野県山之内町公民館の自主学級代表者(女性)。その要旨は、公民館主催の婦人学級で高齢期への準備学習をした受講生が、終了後自主学級をつくり、学習を継続する中で、「我が町の現状は……う」と考えた結果、その対応の不十分さに気づき自主活動を始めたという事です。最初は「福祉地図の作成」から始め、次いで「高齢者の介護の問題」「福祉施設」の問題、そして、ボランティア活動にも取り組んでいる

というものでした。ボランティア活動に取り組んだ結果、老後のことを考えるのは、定年以後(老人)になってからでは遅すぎる。四十代五十代から考えるべきで、公民館はその点を配慮する必要があると言っていました。

寺崎 「福祉地図の作成」というのに興味をそそられるのですが、内容はどんなものですか。羽鳥 福祉の対象者を明確に把握しておかなければならないという必要から、一人暮らし・二人暮らし・ボランティアの体制・救急体制、さらには、介護・年金に至るまでキメ細かな実態を把握するのが「地域福祉地図」



この写真は、寺崎氏の発言の様子を捉えたものです。

です。その取り組みは、行政による「福祉施設づくり」の起爆剤となったという事です。大淵 十日町市では、婦人学級の中で高齢期を迎えるための準備学習を計画的に進めていますよ。女は三度老いを迎えるのをキャッチフレーズにしています。ですから、成人(婦人)教室即高齢者教室であり即福祉の学習でもあるわけです。

登る道は二つでも

羽鳥 公民館の場合、学習中心か福祉活動が中心かということでも部会でも多くの意見や質問が出ました。首都圏の多くは、公民館の本来的な学習活動というよりは、むしろ、福祉行政と提携したボランティア活動が主流になっているようでした。ですから、行政の連携や理解不足だとか、補助金や公的経費が少なくといった不満と、そう言っている間にも対象者は年々増大している、と問題を指摘していました。

森山 町村レベルになると、地区の公民館長と社会福祉の協議会長を兼ねることによって連絡提携を密にしているところも多



この写真は、大淵氏の発言の様子を捉えたものです。

いではありませんか。羽鳥 分科会でも両者を兼務することによって連携への配慮をしている事例も多く発表されていました。

中には、登る道は二つでも到達点は同じなのだから、そこに住む住民の福祉につながればよいのではないかと、そのためには連携が必要だという主張。また、ある県では、成人の学習としてはやっていない。ボランティア活動、介護活動が主体になっているという公民館もあるようです。

小千谷市でも関係セクションでは兼務発令で、連携への配慮をしていますから、行政は必ずしも福祉に対して無理解だとは言いきれませんがね。

上村 公民館が実施可能な福祉の学習にはどんなものがありますか。

羽鳥 学習の内容としては、先程出ました婦人学習のほかに、高校生対象のボランティア養成講座などがあります。小千谷市でも昨年度は二十名の中・高校生で連携しての講座を開設しましたが、今年は五割増して三十名と年々力をいれています。二泊三日を公民館や市民の家、福祉施設などで体験を通して学んでいます。

(以下次号へ続く)

百館百様

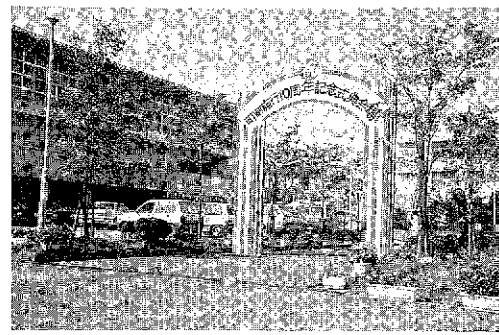
# 金がなければ知恵を出せ!

## 町制施行十周年を祝う事業の工夫

### はじめに

今年がわが栄町に  
とって、町制施行十周  
年の節目に当たる年で  
あり、数多くの記念事  
業が実施された。

例えば、小中学生を  
対象にした「未来の町  
づくり」をテーマにした作文の  
募集、町民を対象にした「町の  
花・町の木・町の鳥」公募、N  
HK夏期巡回ラジオ体操の全国  
放送の実施、日本一の縄づく  
り(これは、現在弥彦大鳥居の



下に奉納されている)等々数多  
くのイベントが用意され実施さ  
れていった。

これらの事業の多くは、町行  
政サイドの主導による(予算化  
による)事業であった。その中  
に一つ、公民館主催の予算ゼロ  
の事業が一際異彩を放った。「フ  
ラワーロードづくり」がそれだ  
である。以下その事業の概略を紹  
介しよう。

### アイデアで勝負

ことは四月に遡る。先に記し  
たように、十周年記念事業が目  
白押しの中で、公民館にはこの  
ための特別予算は付いていな  
い。「町民大運動会」が「町制施  
行十周年記念」という名前は付  
いているものの予算は例年どお  
りの運動会予算しかない。これ  
だけでは淋しい。予算が付いて  
いないか、と公民館職員全員で  
鳩首相談の日が続いた。いろん  
なアイデアが提出されたが、そ  
の中から取り上げたのが「フラ  
ワーロードづくり」である。

十月五日が記念式典の実施さ  
れる日。その日は町内外から多  
くの来賓が訪問する筈。そのた  
くさんの来賓を「花」でお迎え  
しようではないか、というもの  
である。会場に予定されている  
中学校から国道八号線までの約  
八百メートルの町道に、花いっ  
ぱいのプランターを並べよう。  
そして、その花道を通って気持  
ちよく栄町入りをしていただい  
とうというものである。



### 無から有を産みだす

この構想を、現在学習活動を  
している「花いっぱい学級」の  
受講生(男八名・女五十二名)  
に話し、協力を求めたところ快  
く賛成してもらった。又、「園芸  
愛好会」グループ・商工会婦人  
部にも話を持ちかけたところ進  
んで協力してくれることになっ

た。尤もこの「園芸愛好会」と  
いう自主活動グループ(現在の  
会員四十名)は「花いっぱい学  
級」のOBで、年に数回自分達  
で草花の「朝市」を開いたり、  
チャリティイベントを開設し  
て、収益の一部を社会福祉や青  
少年育成会などに寄付をし、  
進んで社会還元活動をしている  
グループであることから、この  
公民館事業に極めて積極的に協  
力してくれた。というより、こ  
の会が推進力となって事業を展  
開していったものである。

育苗された苗が学級生や愛好  
会グループの皆さんに配布され  
た。それからがまた大変。今年  
は運が悪く雨続きで、日照り続  
きの管理よりは却って大変だっ  
たようだ。それにも関わらずグ  
ループの並々でない努力によっ  
て式典の当日は、会場の中学校  
までの八百メートルの道路を、  
見事に咲いた花プランターで飾  
ることができた。

### おわりに

この手作りのフラワーロード  
は、来賓のお客さまの好評を博  
したことはもちろん、町行政当  
局、町民こそって拍手を贈って  
くれた。

何かをやるうとすると、「金が  
ない」「人手がない」と言っ  
て実行に移さないのが最近の行政マ  
ンの風潮であり、公民館にもこ  
の空気が反映しているように思  
えてならない。そんな中で「金  
がなければ知恵をだせ!」とい  
う、心意気で「園芸愛好会」を  
中心とする協力グループの知恵  
とボランティア精神による「フ  
ラワーロードづくり」の成功は  
他の範とするものであると思  
う。後日談であるが、この「園  
芸愛好会」に感謝状を送って公  
民館としての感謝の微意を表し  
たことを付け加えておく。

(公民館長 楠 利雄 記)

百館百様



# サークル交流

## 文化発信基地を目ざして 十日町市「演親会」

よく「懇親会？」と言われる演親会。昭和五十四年四月に、十日町青年学級演劇コースOB五名により発足し、はや十二年半が経過しました。

自分達の土地の方言を使い、語りつがれてきた民話を題材に脚本化し、上演回数も約百回を数えるにいたりました。上演場所は主に、十日町、津南、中里、川西の保育園や学校、神社の境内や集会所と様々ですが、文化の中心は十日町の意気ごみのも



と、地方巡業というところで、県都新潟はもちろんのこと、東京神楽坂・八王子、神奈川県は茅ヶ崎、群馬県の邑楽町と六回の県外公演を行いました。方言を分からなかった人達にも、そこそこ受けたことで気を良くしています。現在の会員は男十名と女三名の十三名。決して上手でない私達の芝居を見て、「あっけなんだけはオラ達が。」という人達がふえ、どこかの祭りにも村芝居が復活する、そんな夢を持ちながら、地域との関わりを大切にしていきたいと願う日々です。(中条地区公民館)

水落久夫(記)

## 生き生き女性の源は

### 加茂市スノーカメラ

どこの市町村でもカラオケと社交ダンスは、中高年層の間で盛んですが、加茂市でもご多聞にもれず、いくつもサークルがあります。しかしスノーカメラがが発足した十年前は、社交ダンスをやる人達は少数派でした。それも講師の若い男性四名以外は女性ばかりでした。私達は良き講師陣にめぐまれ、今日まで細く長く続いております。



現在はご夫婦で習われる方もあり、男性も数名参加しており、「音楽にのせて身心共にリフレッシュ」をモットーにスポーツとしての社交ダンスを楽しんでいます。姿勢を正しく保ち、ステップを踏みながら消費エネルギーを高め、のみ込みの悪くなった脳細胞をフル回転させてしかも楽しもうとする為には、短期間ではむずかしい。又相手のあることで、思いやりとかエチケットもそなえていなければならぬ。

今後は男性が上手、下手にとられず、自由な自己表現の出来る社交ダンスにどうしたら参加されるかが課題です。

(代表 井部芳子 記)

## 見附市今町公民館・主事補

長谷川 撰子 さん

四月一日付で公民館に配属された長谷川さんは、今年の新採用。入ったばかりで社会のしくみも何もわからないままの公民館勤務。社会活動実践の場で忙しい毎日を送っている。学生時代は野球部のマネージャーをしていたと言う。明るい雰囲気で大いに情熱を注いでいたこと



しょう。  
公民館の役割などまだ何もわからない毎日

## 素顔拝見

### 柏崎市鶴川公民館指導員

押田 紀代子 さん

指導員として勤務13年のベテラン。明るい笑顔と大きな声が存在感を際立たせている。さっそく13年の哀歓を問う



しやる。

と、「辛いのは人集めノ」という。過疎に悩み不安を持つこの地の人たちの心は、常に外へ(都市部へ)向きがち。その心を内へ向けさせるのが難しい。それが公民館へ足を向けにくくしている要因であるという。「とは言うても、多くの人は公民館を心のよりどころにしてきていますし、事業には極めて積極的に協

の中での窓口事務だが、電話の応対などはさわやかな声でできばきとしていても感じが良い。今年成人式を向かえたが、自分の職場が主催ということもあり、皆さんに祝福を受けた。「まだまだまだ弱輩者ですが自分が出ることは精一杯がんばります。」と本人は言う。今後は女性があらゆる可能性を発揮する時代である。いろんな経験を通じて前向きな人生になるよう暖かく見守っていききたい。(見附市今町公民館 鈴木 勝夫(記))

力的なんです。それが何よりも嬉しいことです。」とおっしゃる。  
昼夜の別なく公民館の仕事に没頭して、家庭崩壊の気険は？と伺うと、「ウフフッ！」と笑って相手にしてくれない。婦りの車の中で、中央公民館の小山係長氏が「ご主人が最大の理解者なんです」と教えてくれた。住民の心を知悉している押田さん。これからも活躍を！と声援を送る。(上村 記)

# ネットのー

## 出品してはいかがが!!

### 第一回新潟県水墨画展作品公募

新潟墨画会では、新潟県教育委員会、その他の機関の後援を得て、第一回新潟県水墨画美術展の作品を公募している。

主旨は「水墨画の伝統技法を現代に生かし、新しい時代感覚で常に視野を広く持ち、水墨画美術の高揚を目的としている。」

県下の公民館には、水墨画教室は数多く開設していることから、応募をおすすめする。

なお、応募規定は次のとおり。

会期平成4年3月4日～8日  
会場新潟県美術博物館

作品①水墨画本来の墨色を尊重した未発表作品(墨彩画可)  
②額装10号以上

出品料作品一点につき額装10号以上4千円、50号以上5千円、100号以上1万円(二点以上出品の場合、点につき千円追加)

搬入受付平成4年3月1日(日)午前9時～午後4時

受付場所新潟県美術博物館3F  
出品手続出品申込書、貼付票に所定事項を記入し、出品料を添えて提出。

審査・展示①公募作品は審査の

うえ、入選作品を展示。  
表彰式平成4年3月8日  
発表入賞・入選作品はハガキで

## まちから

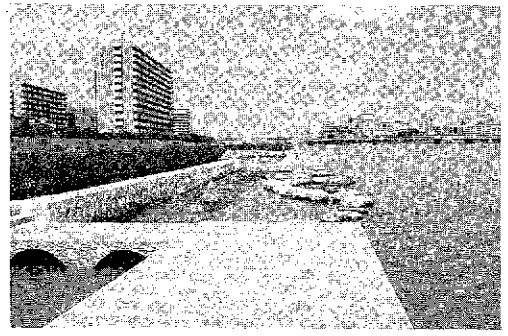
市町村の隠れた名所紹介のコーナーです。

### 【新潟市の巻3】

新潟市では、関屋分水下流の信濃川の兩岸を埋め立てて、憩いの広場づくりが進められてい

る。目下左岸の五百メートル程度が完成し、「やすらぎ堤」と名づけて市民に開放されている。写真に見える池のようなところは、海の満潮時には水面が上がり、眺めもその時々で変わる

通知する。  
問い合わせ、資料請求は、返信料62円切手同封のうえ、新潟墨画会事務局へ。  
(〒950-21新潟市坂井東4丁目21番24号、電話〇二五―二六〇―〇一九六)



## 図書紹介



## 生涯学習まちづくり推進委員の手引き

監修 岡本 包治  
日常出版刊

立教大学岡本包治教授の監修になる「生涯学習まちづくり推進委員の手引き」が刊行された。

質疑応答形式ではないが、市町村現場での疑問点に答える切り口のやさしい解説書。

執筆陣には、文部省社会教育官、国立社会教育研究所専門職員、その他若下の民間人により、文部省で進めている「生涯学習まちづくり」のための推進員への手引書である。

内容は、生涯学習

とは、なぜ生涯学習の推進か、生涯学習のまちづくり、推進体制や推進会議の機能を前段で解説し、生涯学習推進委員は何をするかにおいて、行政職員、議会議員、社教委員、公運審委員、図書館協議会委員、ほか11関係者代表が推進委員になったとき、どうしたらいいかが述べられている。

平成3年10月10日刊  
B6判158頁定価千円  
送料250円、県公運事務局へ申込まれた。

仕組となっている。  
余談ながら、この撮影場所の左わきが県公運事務局のある林業会館になっている。新潟市へお出かけの節は是非お立ち寄りほどを。  
(上村記)

◆歴史の転換期を象徴するような大事件が続発した平成三年は暮れました。今年は何のような年になるのでしょうか。

◆公民館関係者にとっては、昨年六月に、生涯学習審議会が中間報告した「公民館の整備・運営の在り方について」があります。その内容には格別の新鮮味がなく少々失望させられました。

◆それでも、つぶさに吟味すると、いくつか気になることがあります。それを検証する年にしたいものと、年頭に当たって思いました。  
(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・原林業会館内】  
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部120円 年共1,440円】